

令和6年度 事業報告

事業の概要

本年度の事業の概要は次の通りであります。

1、研究助成(公募)

公衆衛生の向上及び生活環境の保全を促進させる。
研究や活動を行っている個人又は団体に対し助成金を支給
今年度は下記2テーマに関連する研究を助成対象としました。

①「感染症及び外来生物」

- ・募集期間 4月～12月
- ・応募件数 24件
- ・助成支給件数 12件 (100万円/件)

「ゲノムからみる特定外来生物セアカゴケグモの分子進化」

慶応義塾大学 准教授 河野 暢明

「小型行動計測デバイスを用いたリアルタイムトラッキングによるアブの生態解析」

帯広畜産大学 准教授 菅沼 啓輔

「外来性海鳥が運ぶマダニと病原体:遺伝型の解析から拡散の歴史を探る」

山口大学 准教授 高野 愛

「ロングリードシーケンサーを用いたダニ媒介病原性微生物の網羅的検出法の開発」

岡山大学 助教 福島 伸乃介

「有害節足動物を防除するための微生物利用技術開発」

広島大学 特任准教授 野田 正文

「コウモリ寄生性ツツガムシの季節的消長とOrientia属細菌の分子疫学調査」

北海道大学 客員研究員 邱 永晋

「人工疑似ウイルスを用いた富山県のイノシシにおける節足動物媒介感染症

の侵淫状況調査」

富山衛生研究所 主任研究員 矢澤 俊輔

「蚊の羽ばたき3次元軌跡を計測するモスキートカメラ」

広島大学 助教 島崎 航平

「蚊特異的ウイルスの生物学的特性と媒介蚊との相互作用の解析」

愛媛大学 特定准教授 鈴木 康嗣

「小型哺乳類におけるウイルス相解析および宿主集団とウイルス群集の構造比較解析」

北海道大学 助教 尾針 由真

「ムネアカハラビロカマキリによる繁殖干渉の実態調査および分布可能地域の推定」

東京農工大学 特任准教授 山崎 和久

「ダニ媒介性・動物由来感染症のハイリスクグループに関する研究」

国立感染症研究所 主任研究官 新倉 綾

②「生物機能の産業利用・工業化」

- ・募集期間 4月～12月
- ・募集件数 10件
- ・助成支給件数 5件 (100万円/件)

「植物病害に応じたポリインチューニングによる微生物農薬の革新」

大阪公立大学 准教授 甲斐 建次

「バイオ燃料の実用化に向けたユーグレナの脂質蓄積増強メカニズムの解明」

大阪公立大 講師 小川 拓水

「炎症を抑える細胞外多糖体の発見と予防医学への応用」

広島大学大学院 教授 杉山 政則

「ハヤブサの急降下飛行における小翼羽の機能と制御メカニズム」

東京農業大学 助教 菊池デイル万次郎

「微生物・ウイルス検出の為の酵素-DNAアプタマー複合体の開発」

東京農工大学 教授 池袋 一典

2、奨学金事業

公衆衛生の向上や生活環境の保全を進める人材育成のため、国内大学院生とアセアン諸国からの留学生に対し奨学金を支給した。

- ・令和6年4月より奨学生8名に月額5万円支給実施。